

日本発達障害学会第45回大会  
自主シンポジウム3  
2010/09/05

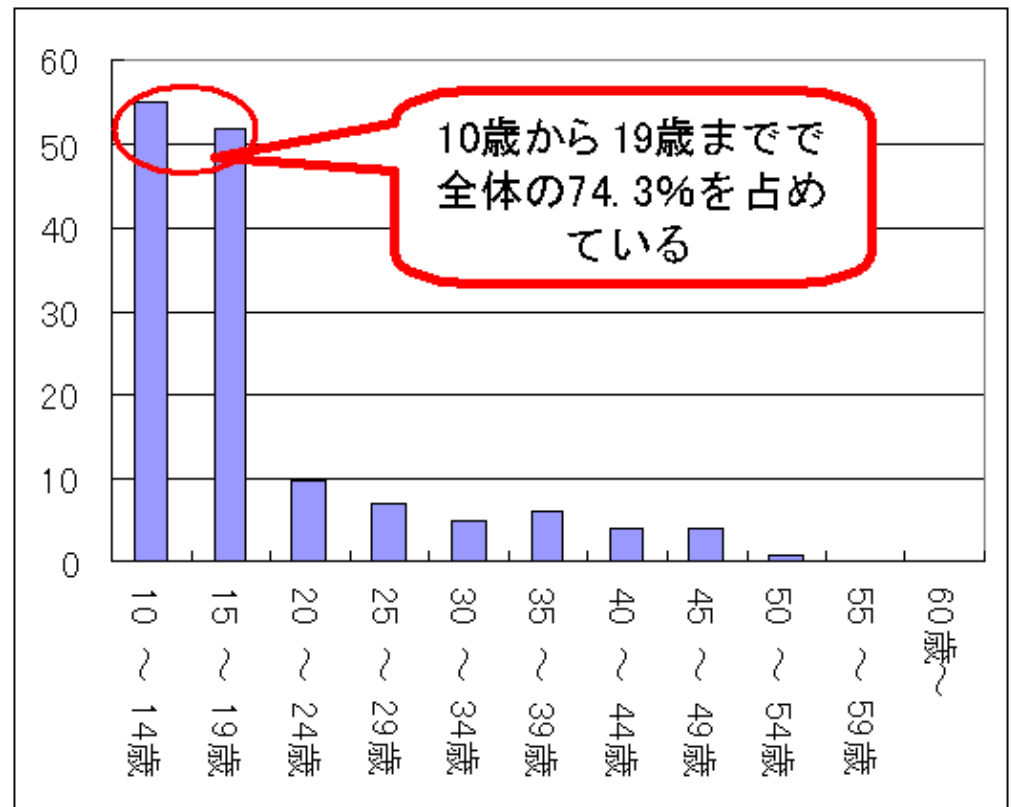
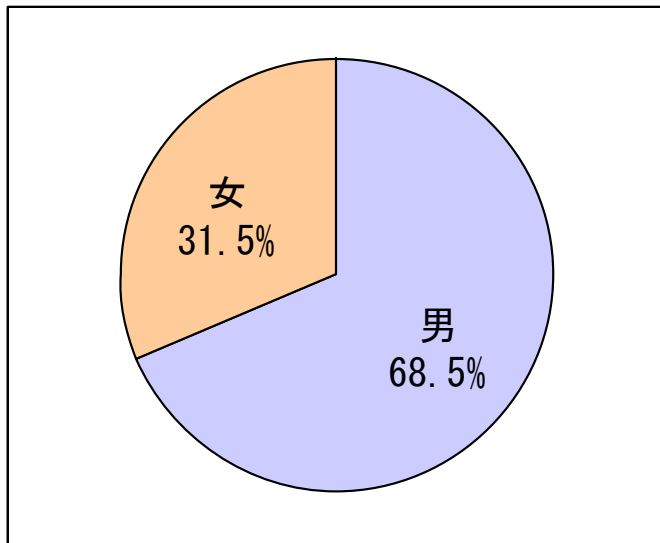
発表者 井上 芳郎

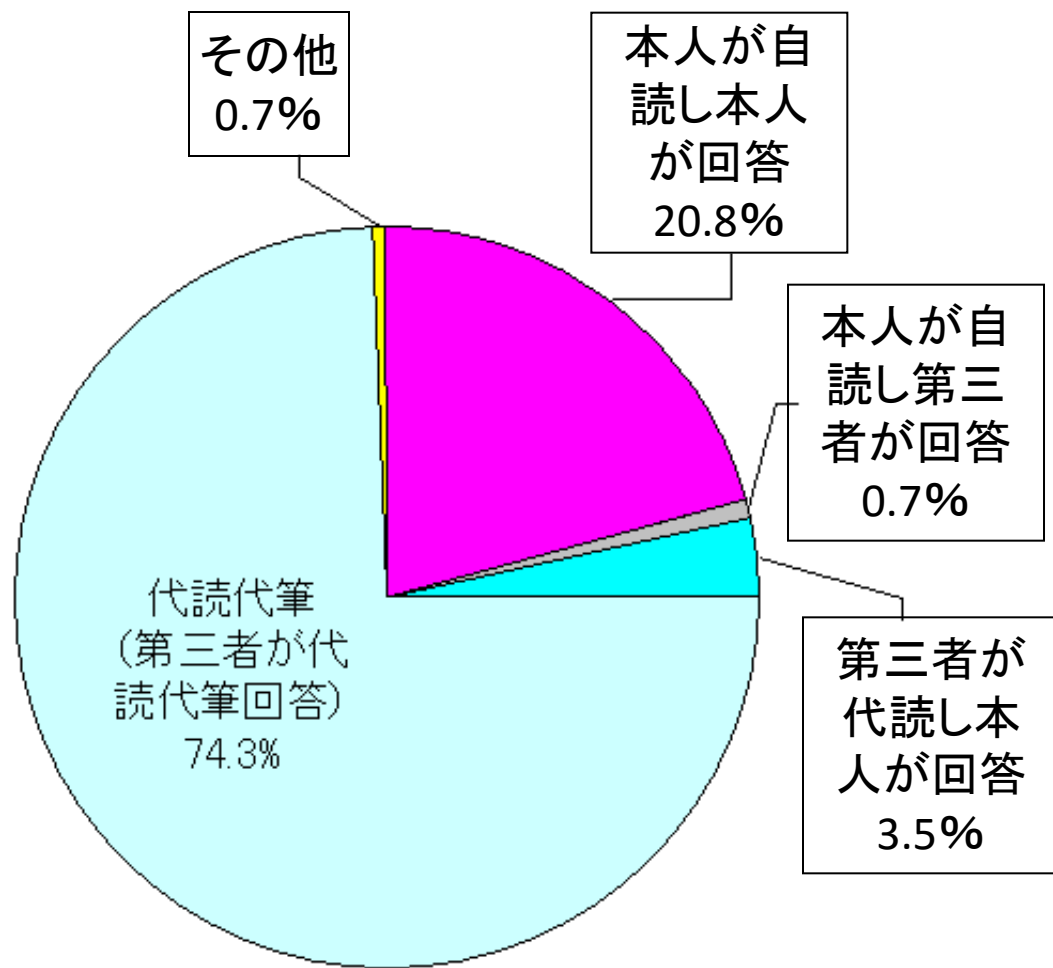
【発表資料からの抜粋】

# BRC 読みに困難がある人の読書に関するアンケート調査(本人対象)

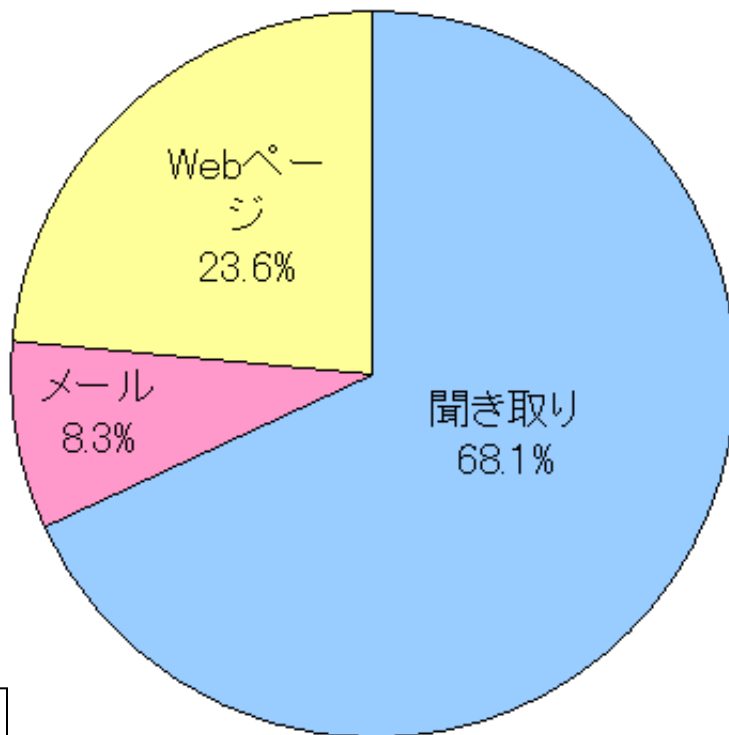
- 期間 2008年10月～2009年3月末
- 回答総数 144件
- 男女比はほぼ 7:3

- 回答者の年齢分布



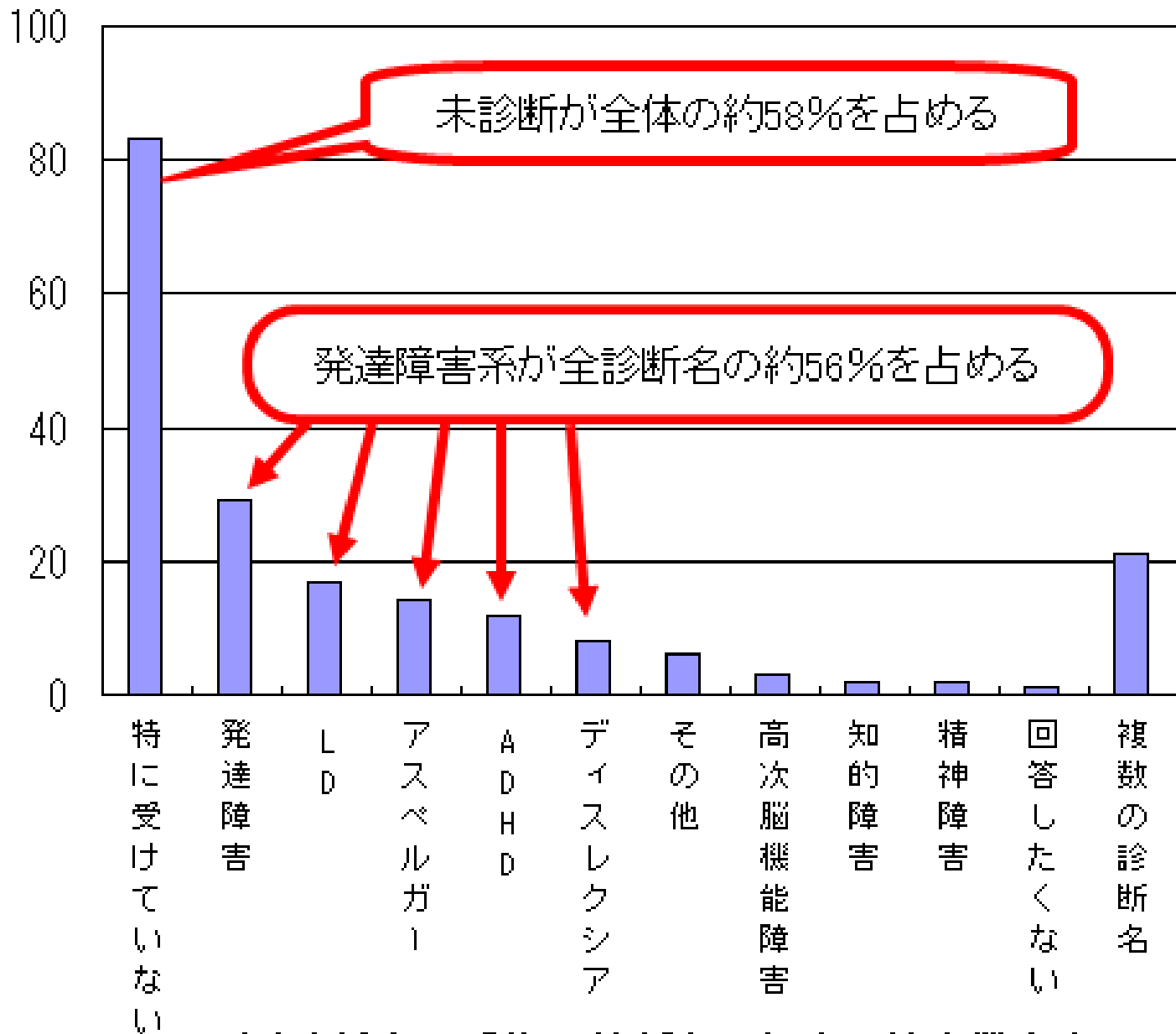
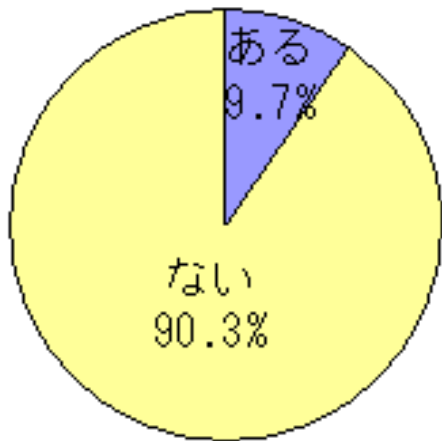


アンケートへの回答方法

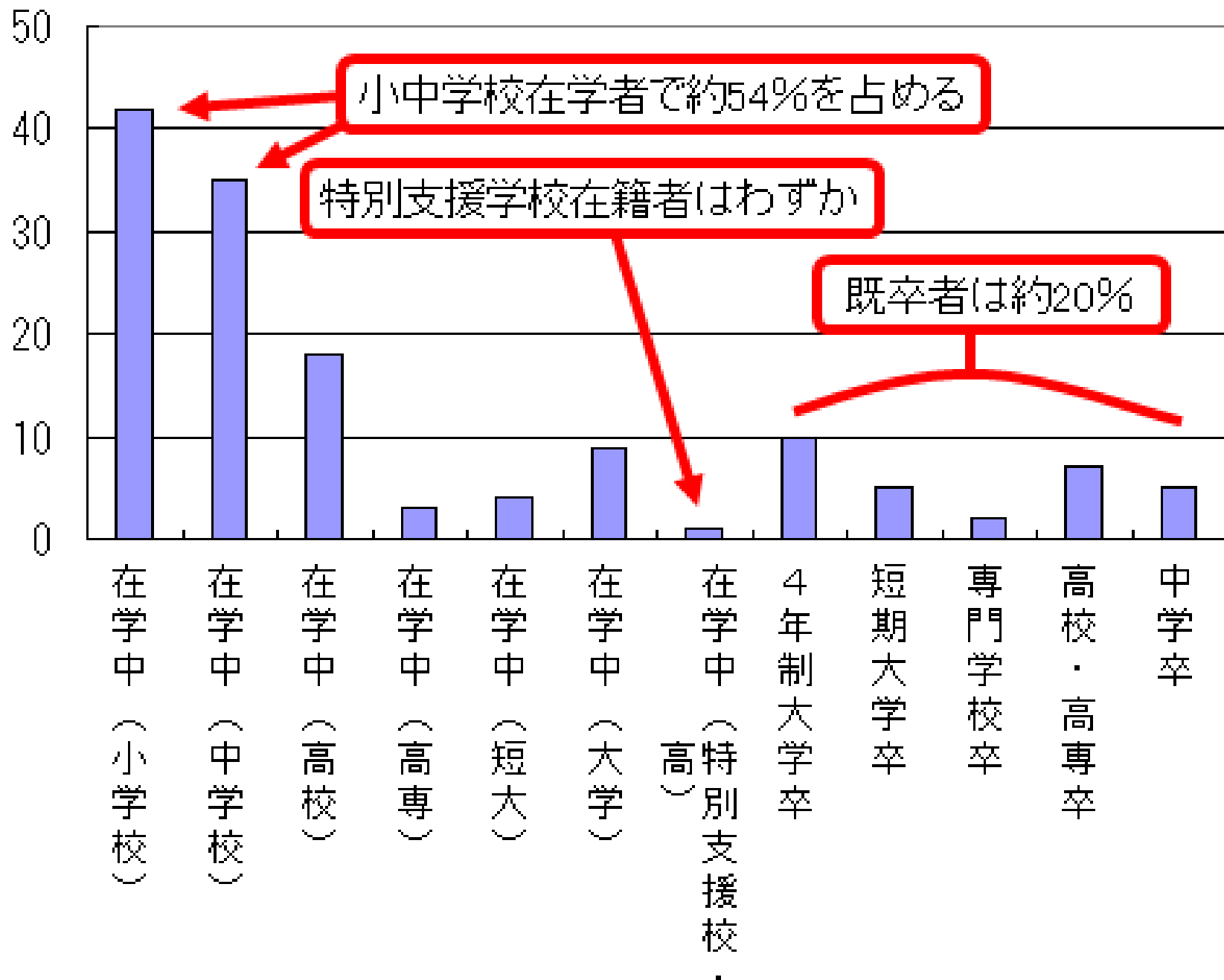


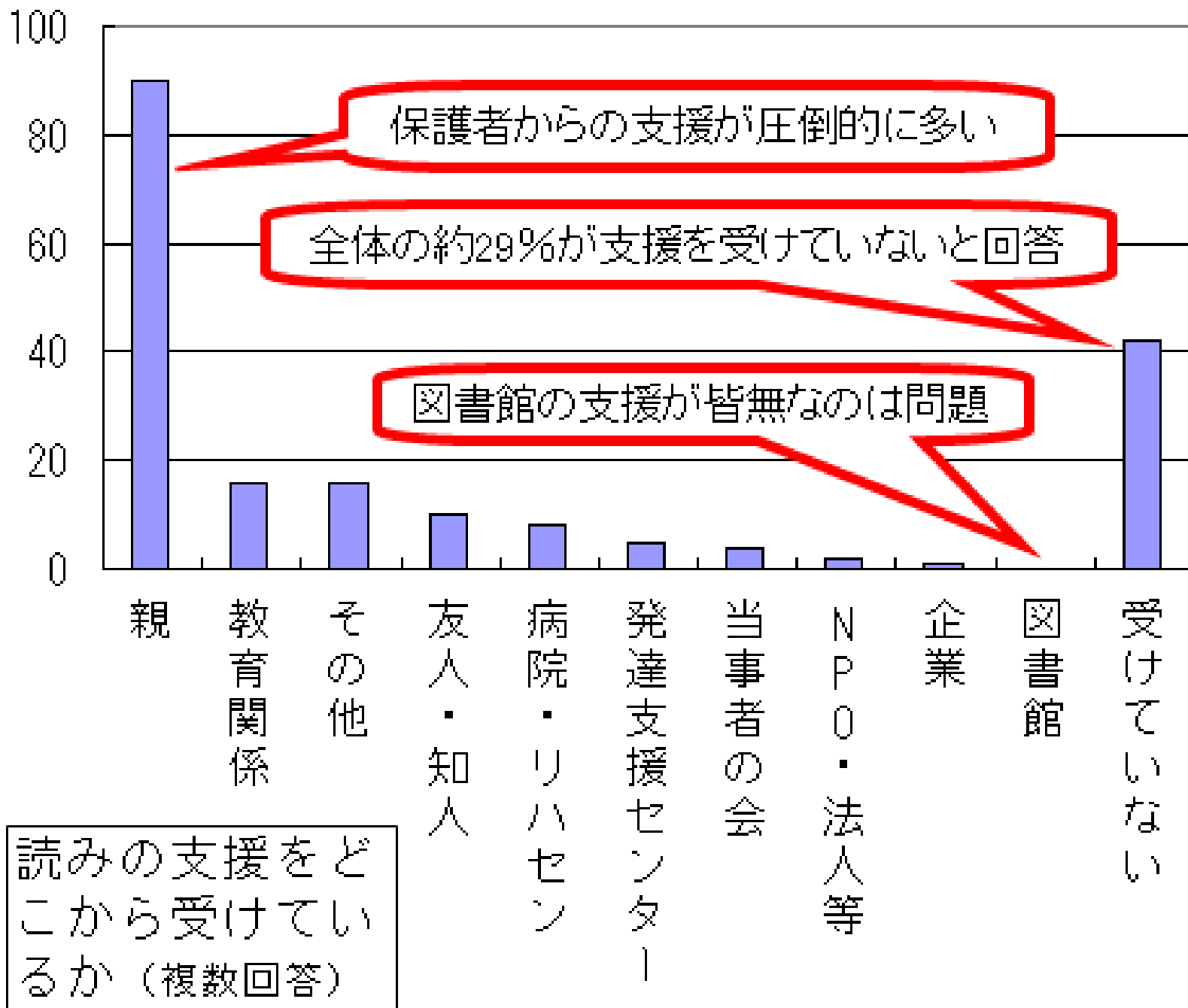
アンケートの回収方法

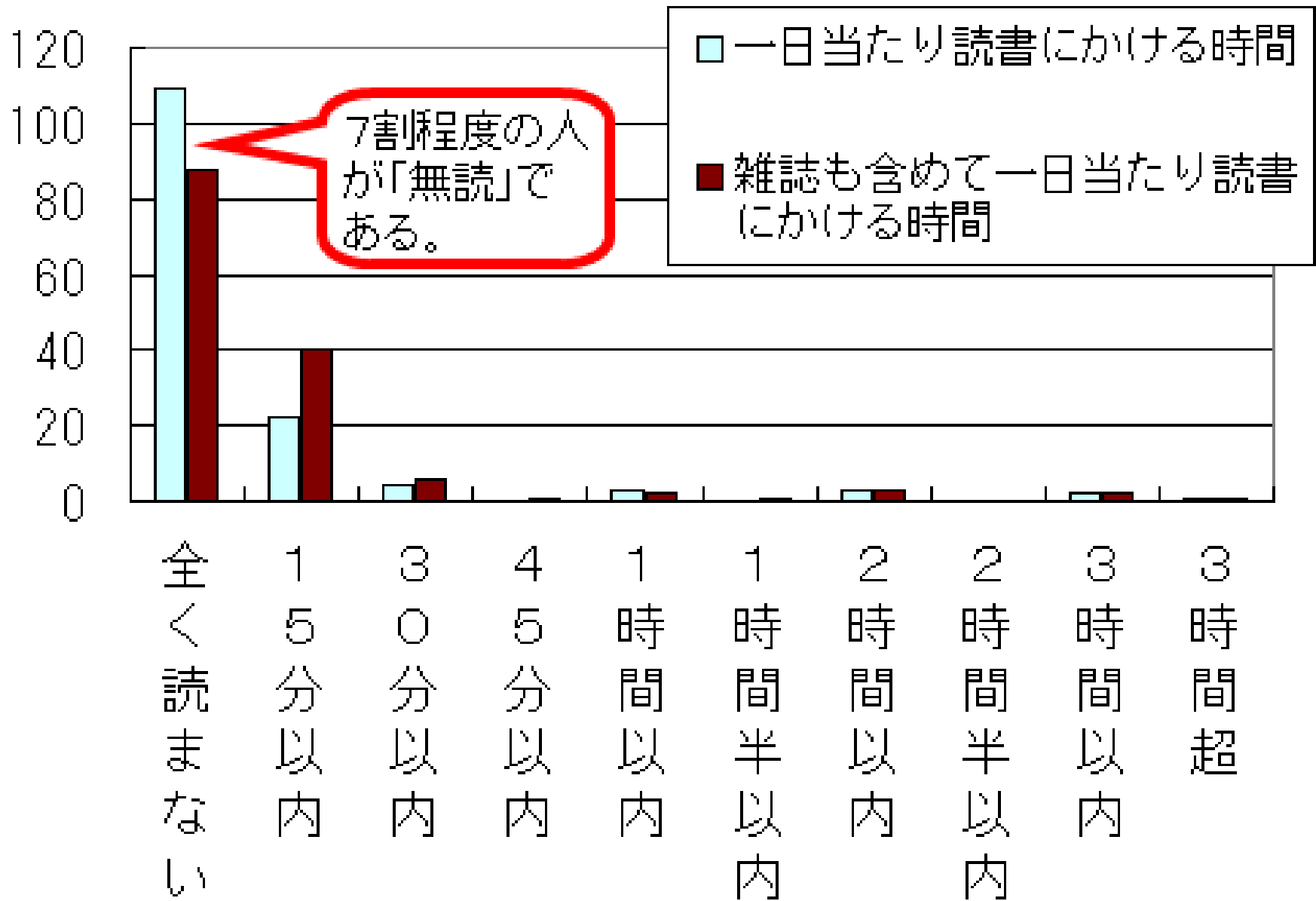
読みの困難そのものの診断を受けている人は10%に満たない。



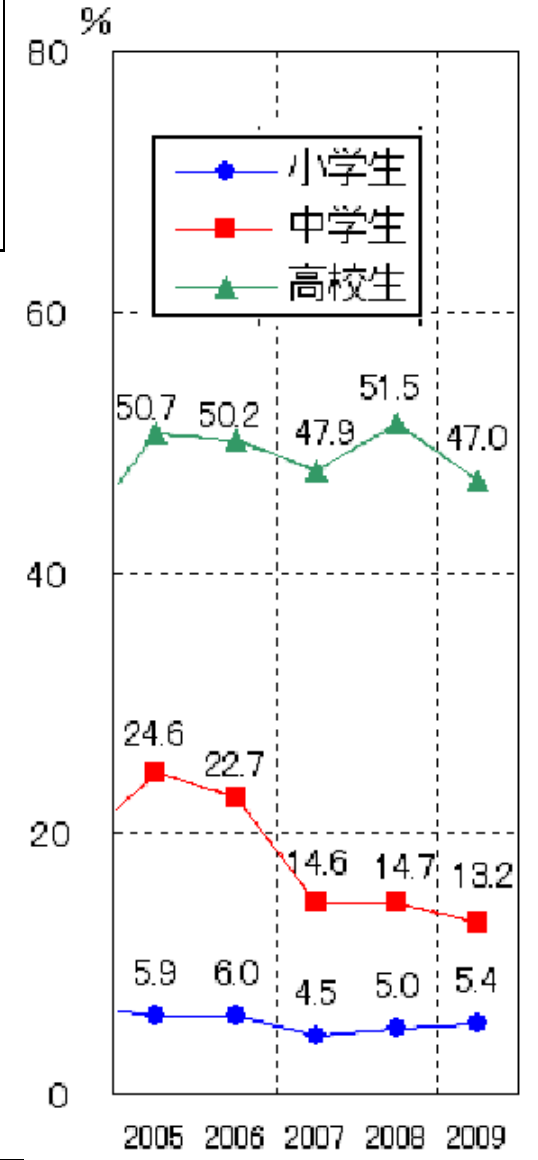
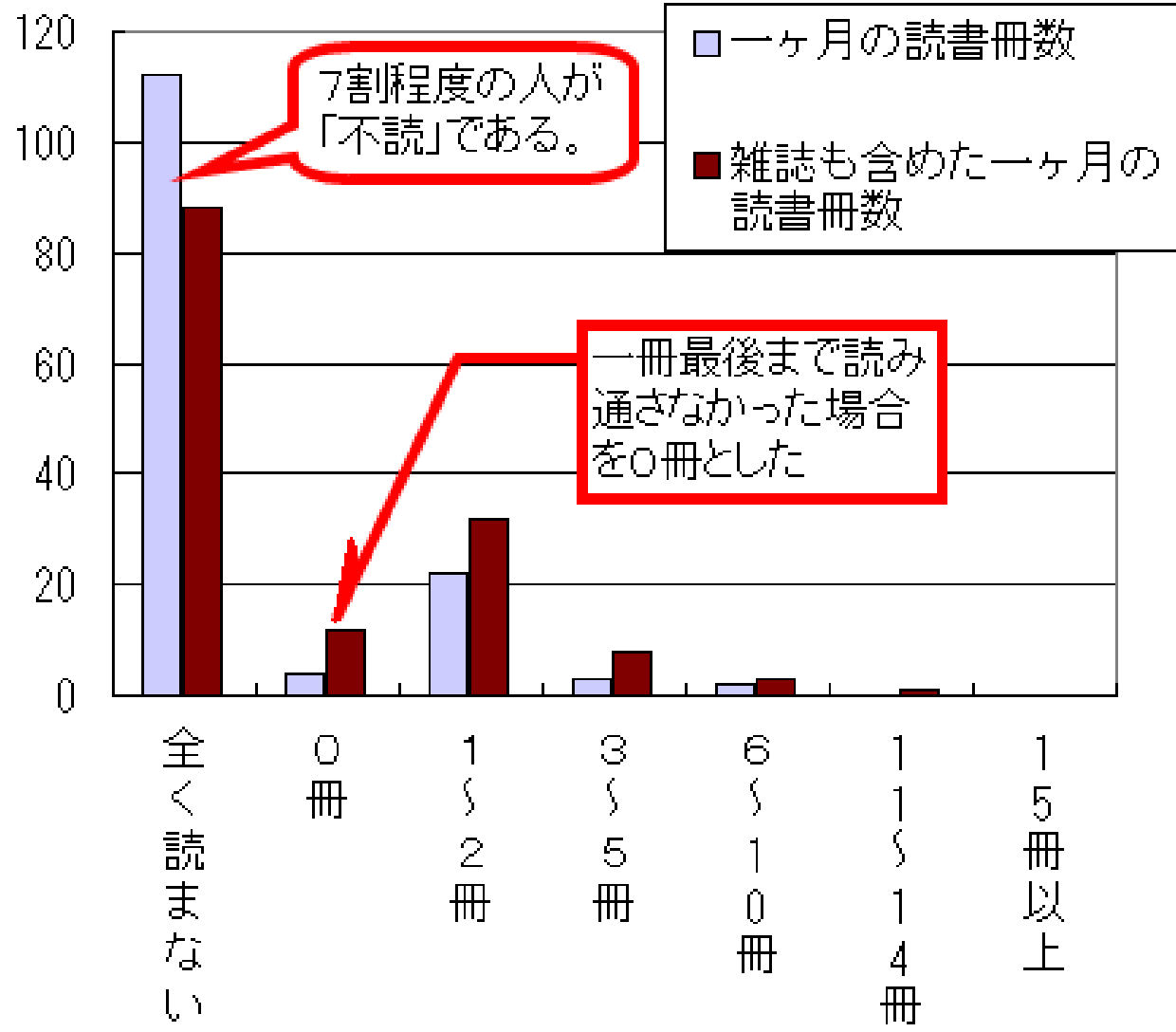
※診断名は重複回答があるため回答者数を上回る





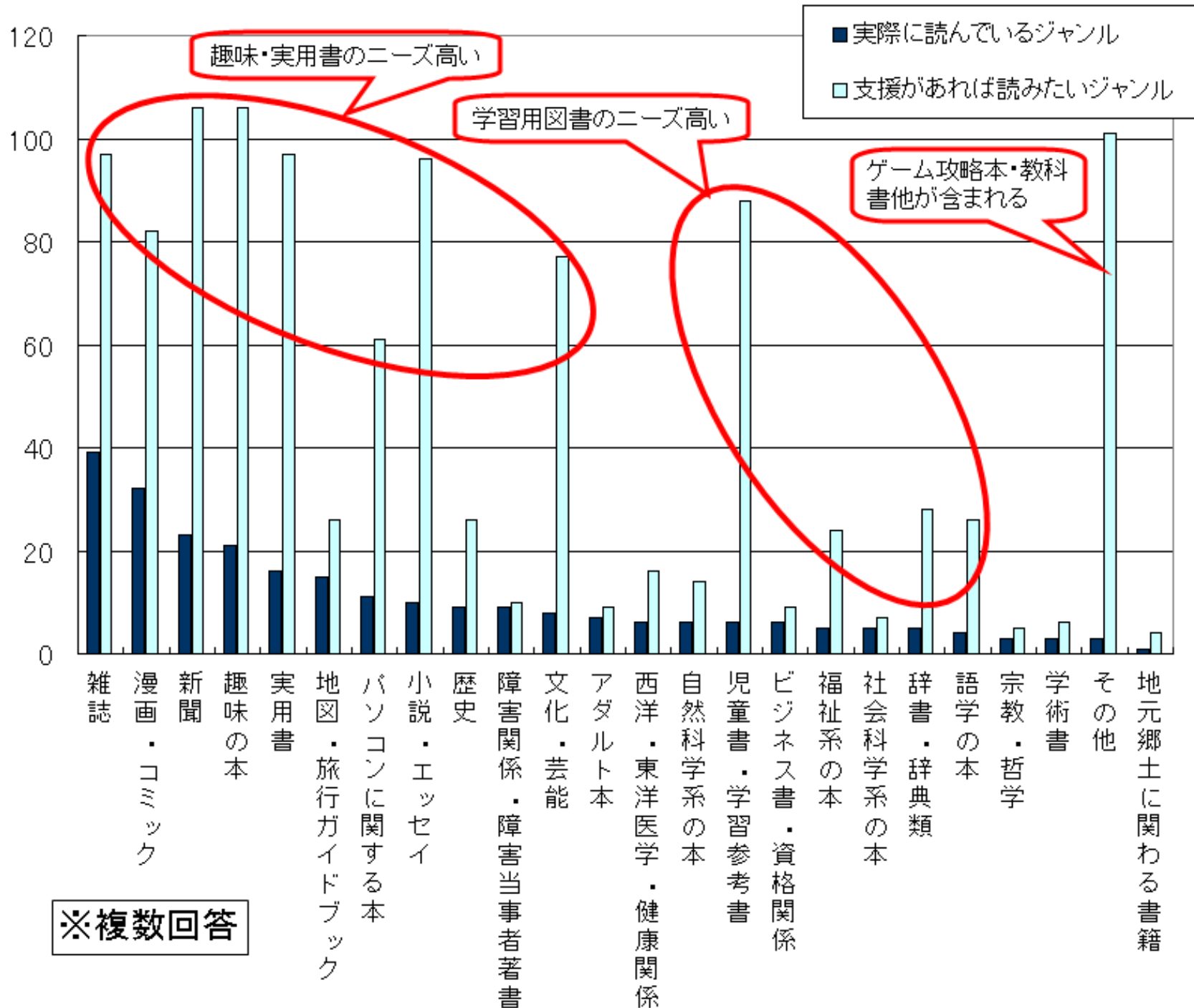


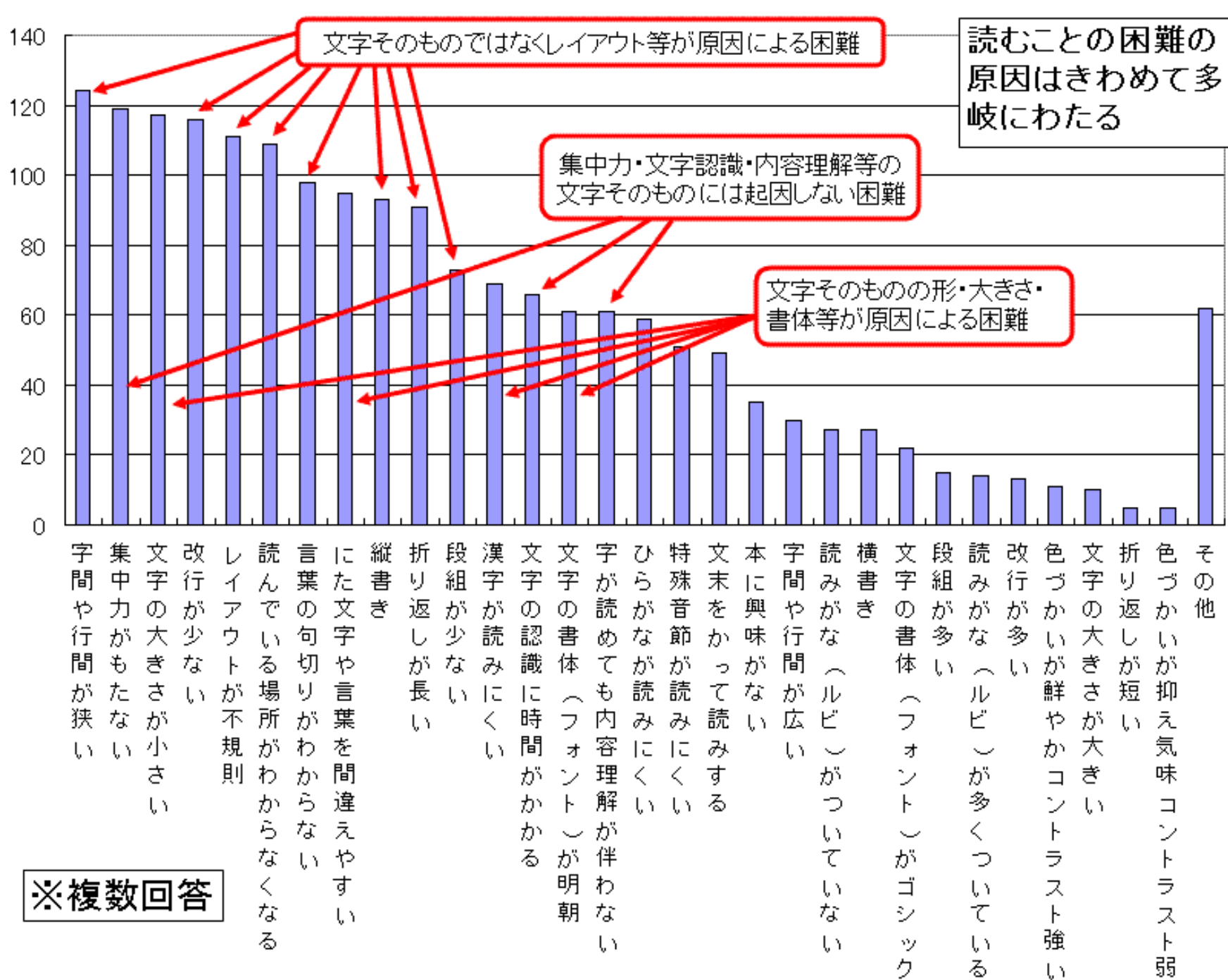
# 不読者(0冊回答者)の推移

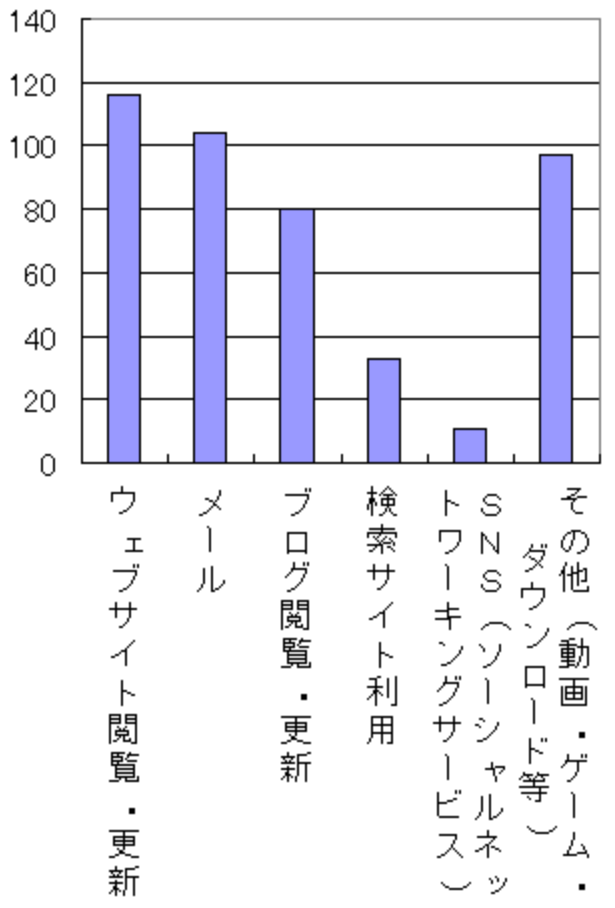
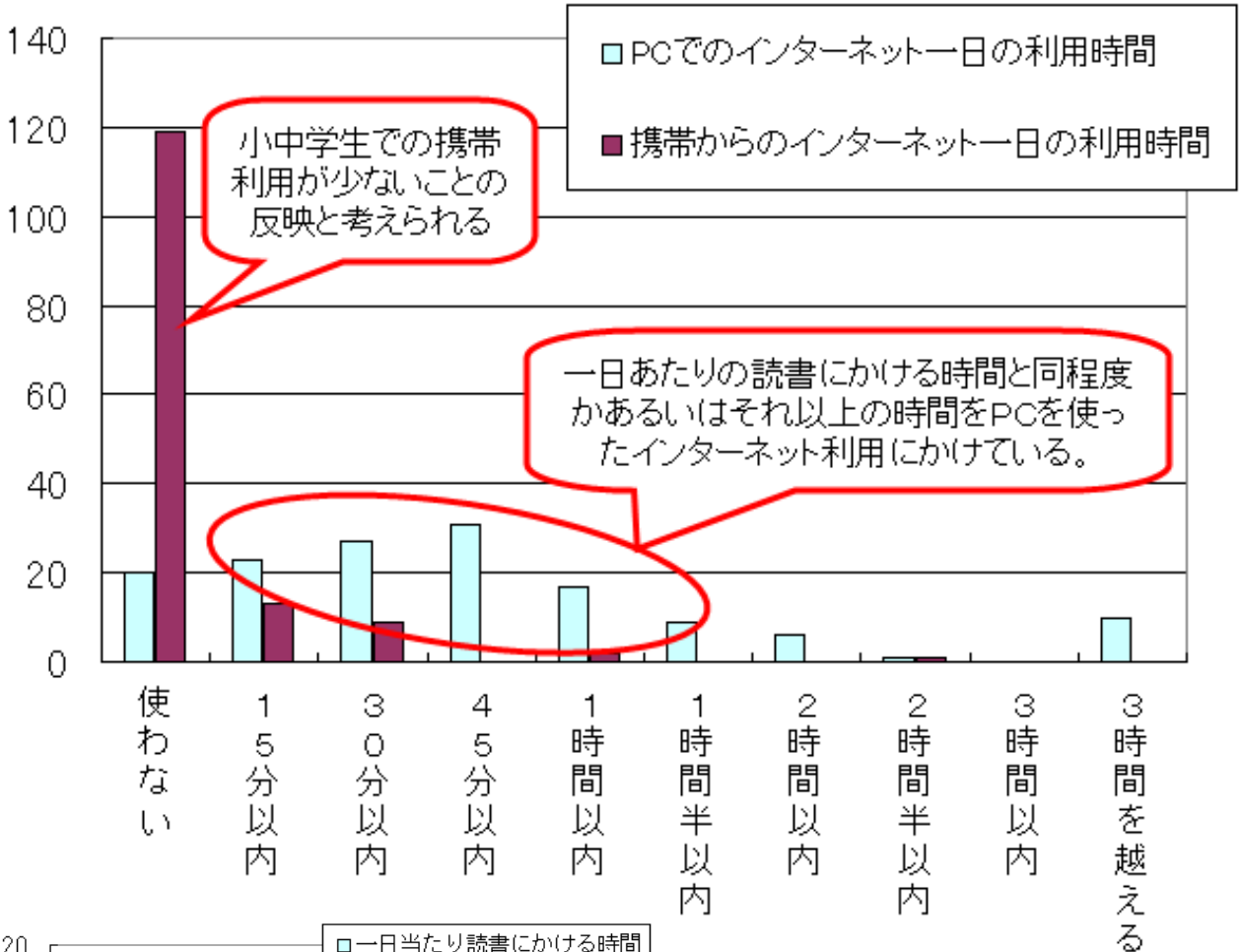


全国学校図書館協議会「第55回読書調査」(抜粋)

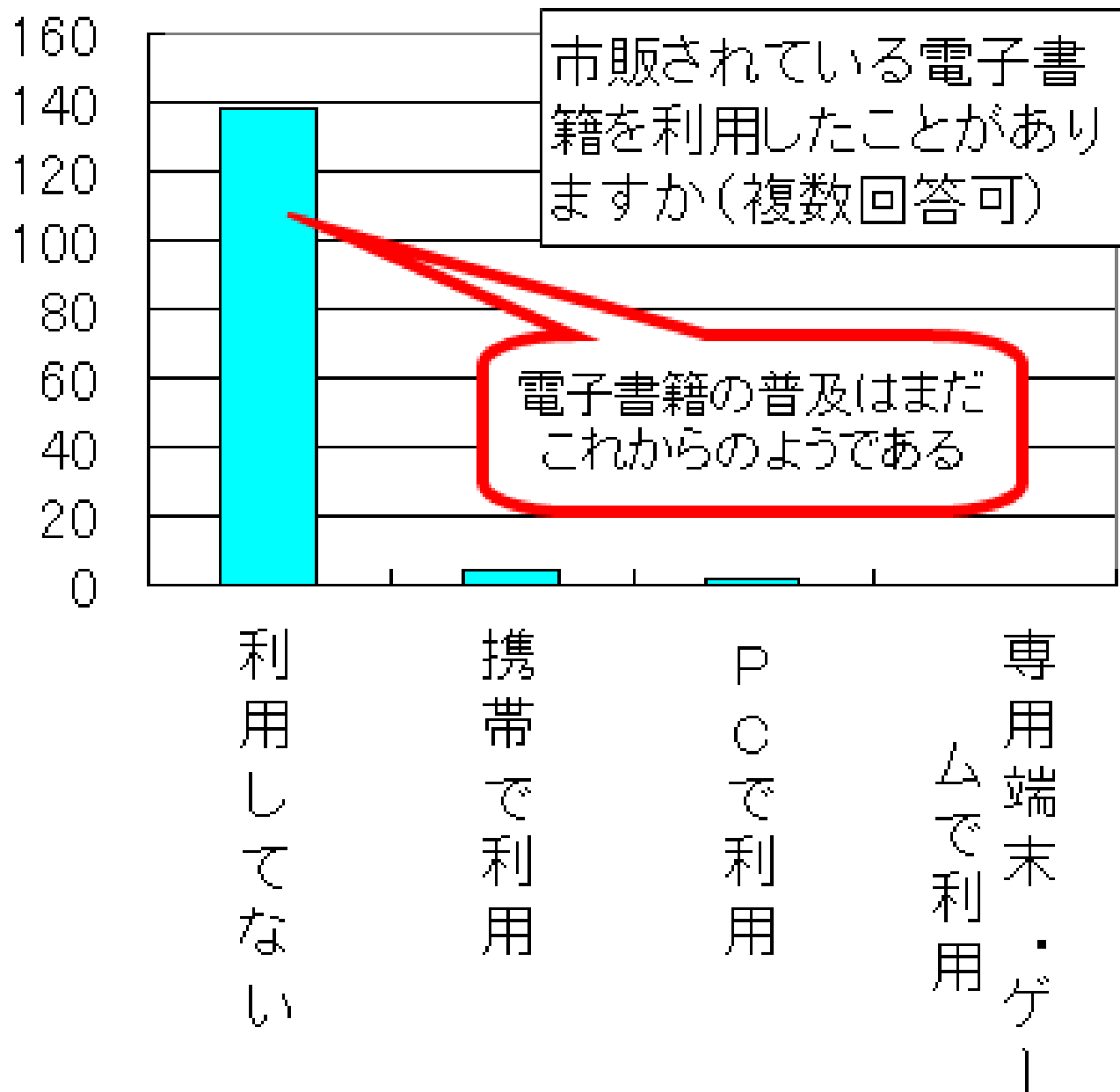


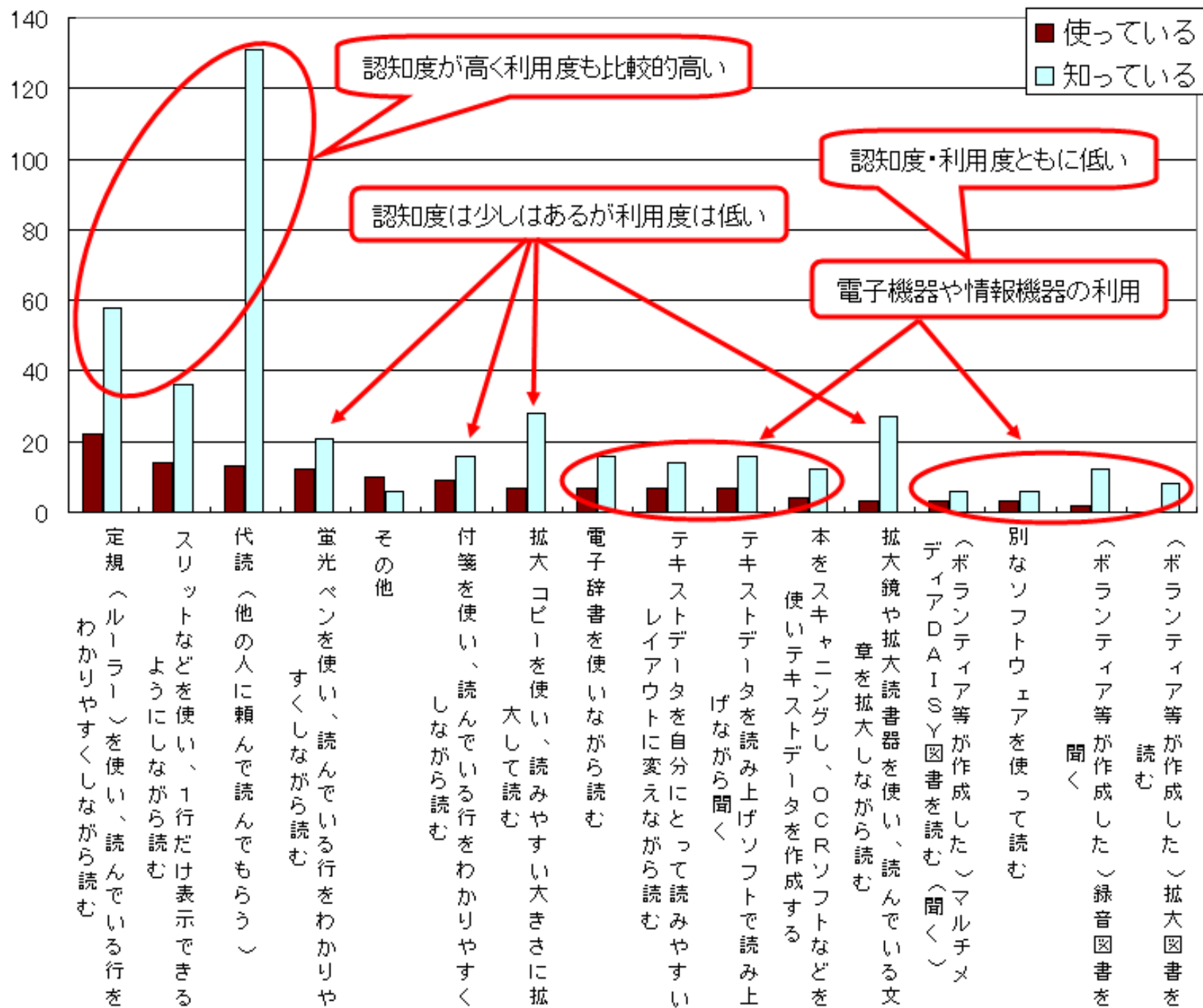




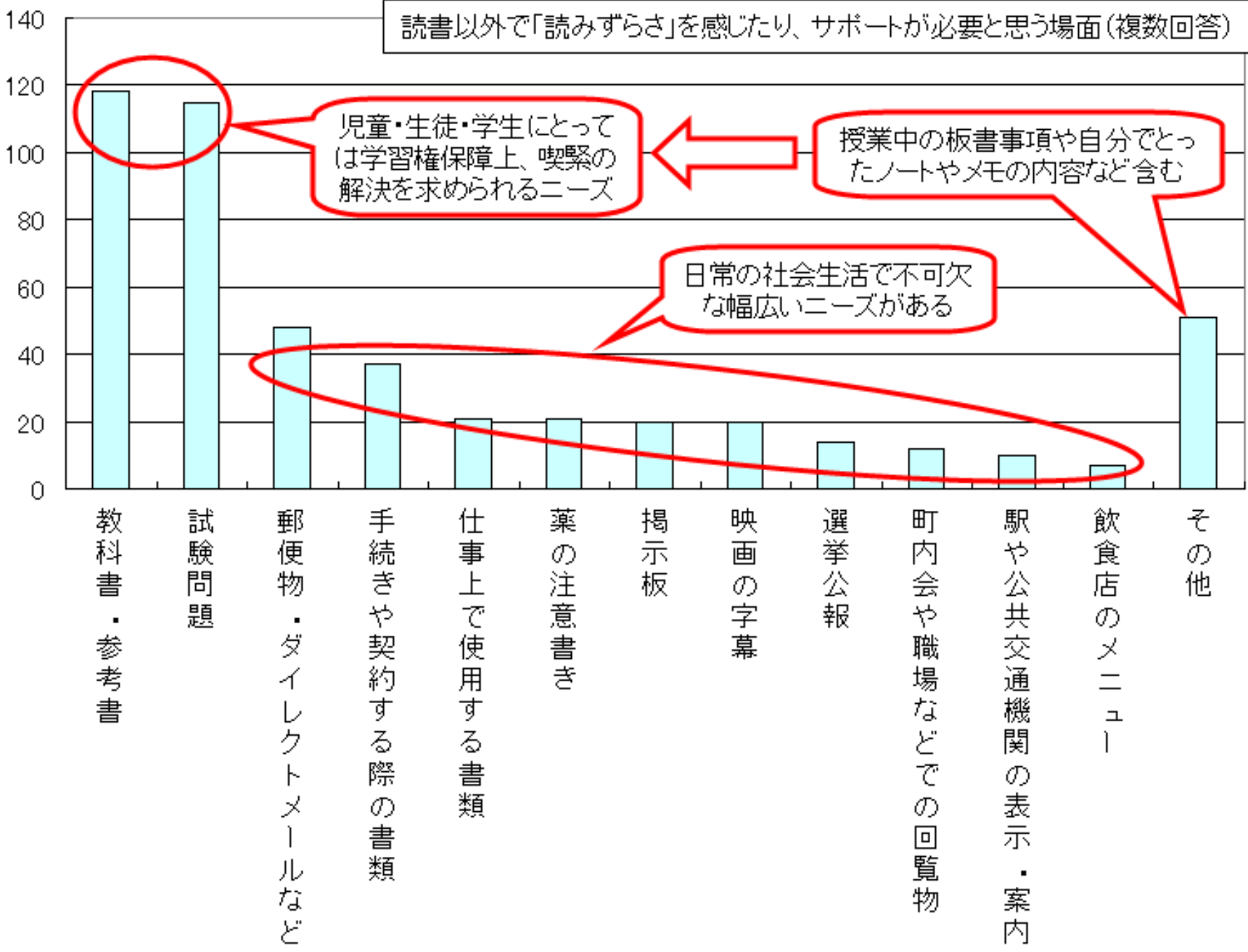


インターネットの主な利用目的(複数回答)





読書以外で「読みずらさ」を感じたり、サポートが必要と思う場面(複数回答)



# 読みの困難のある人に対する 「支援者」へのアンケート

- 読みの困難のある人への支援をしている方たちに対して、2008年10月から2009年3月末までネット上に公開したアンケートフォームからネット経由で回答いただくか、アンケート用紙を手渡しして直接回答いただいた。
- 全体で65名から回答を得たが、そのうち63名がネット経由、残り2名が直接の回答であった。
- ほとんどの回答者がネット経由であり、一定程度レベル以上のICT(情報通信技術)スキルを有する方たちからの回答が多数であることが予想される。

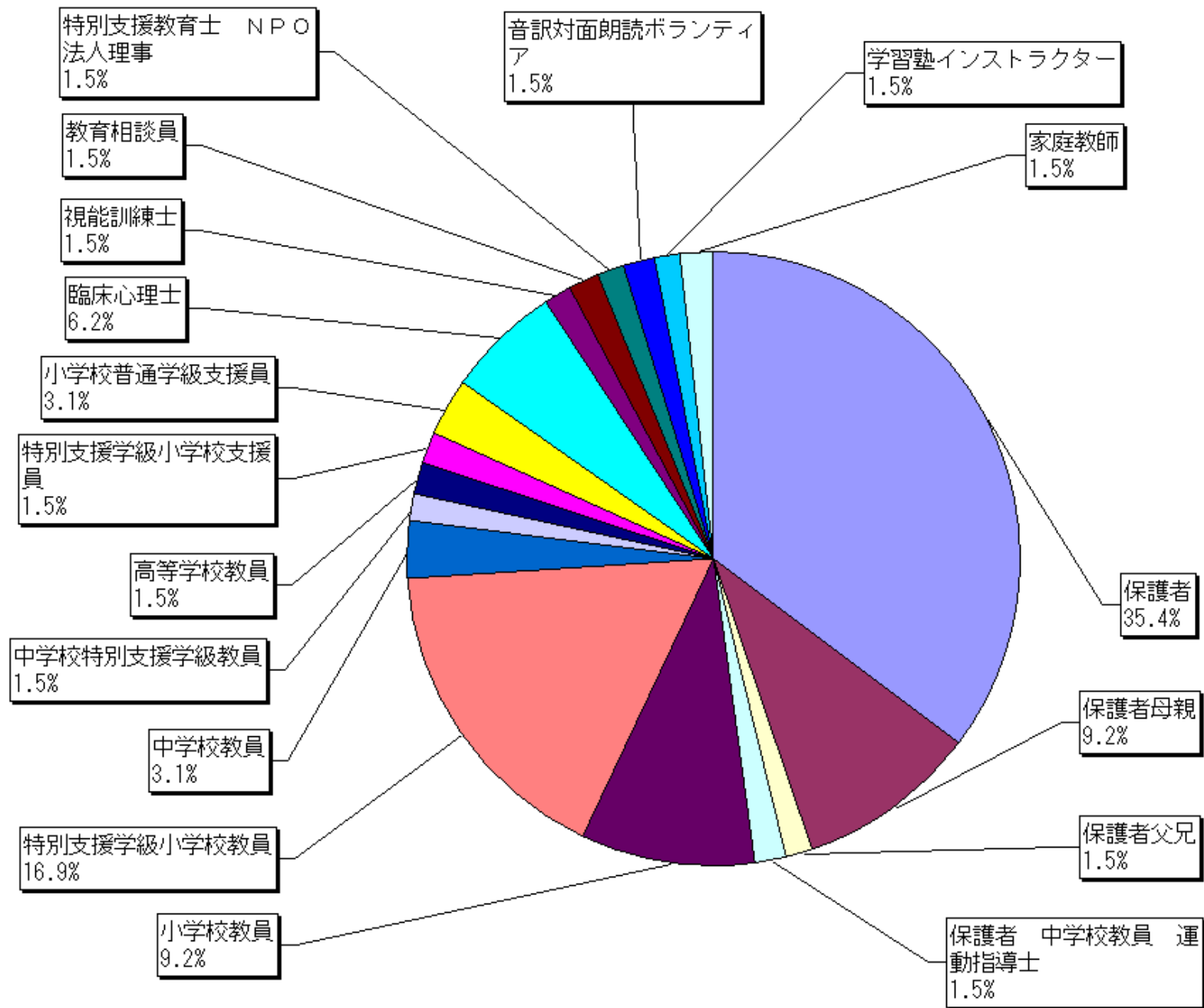


図1-2 回答者の属性（詳細）



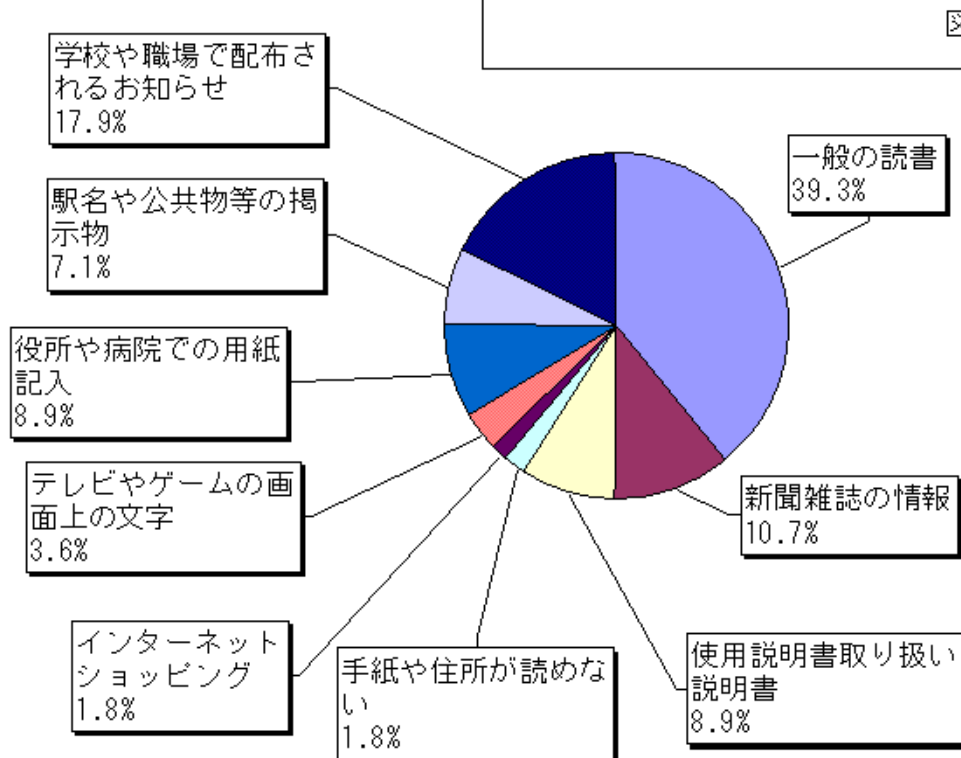
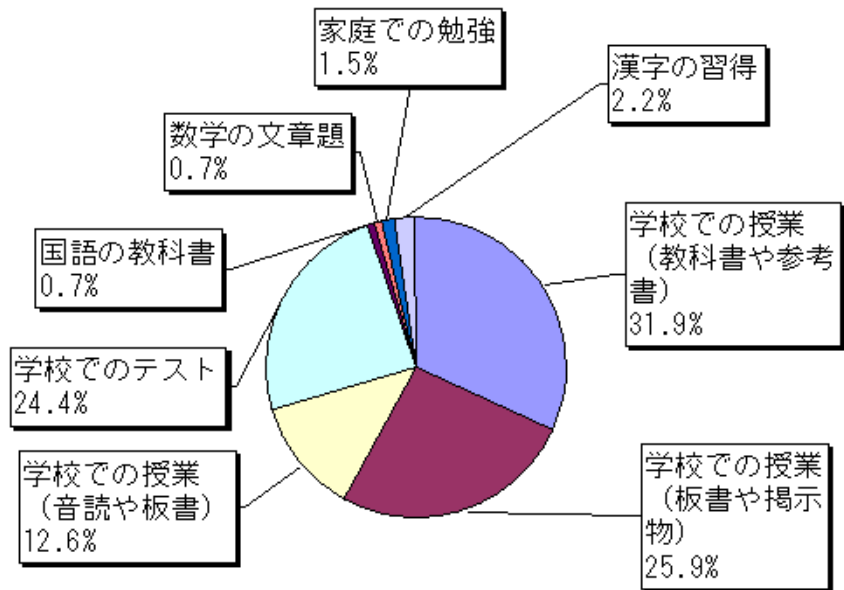
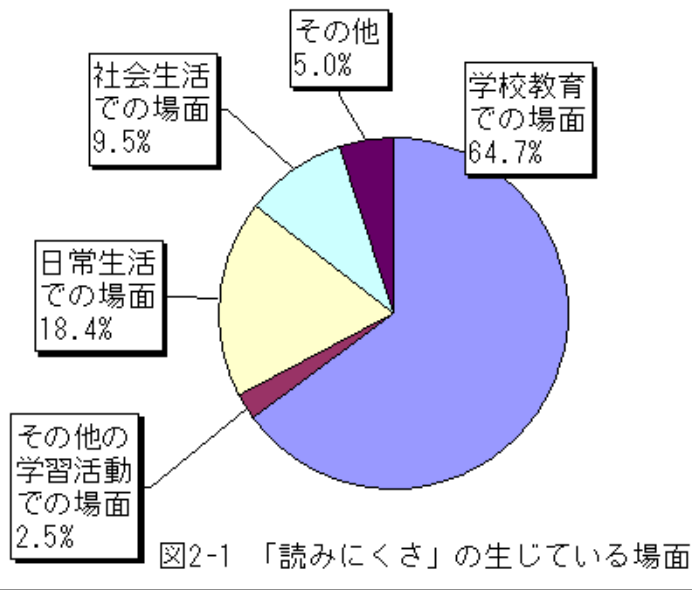
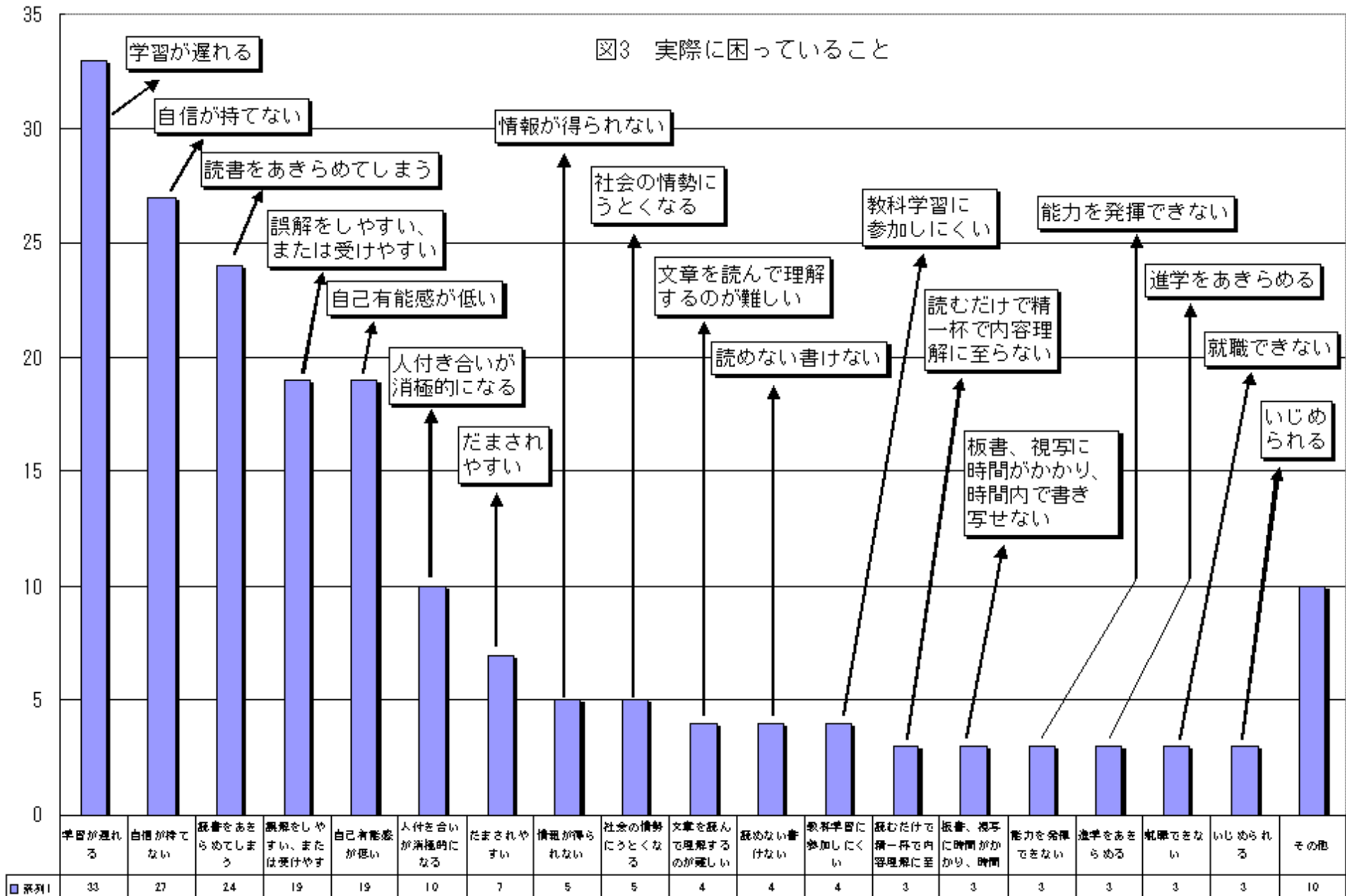
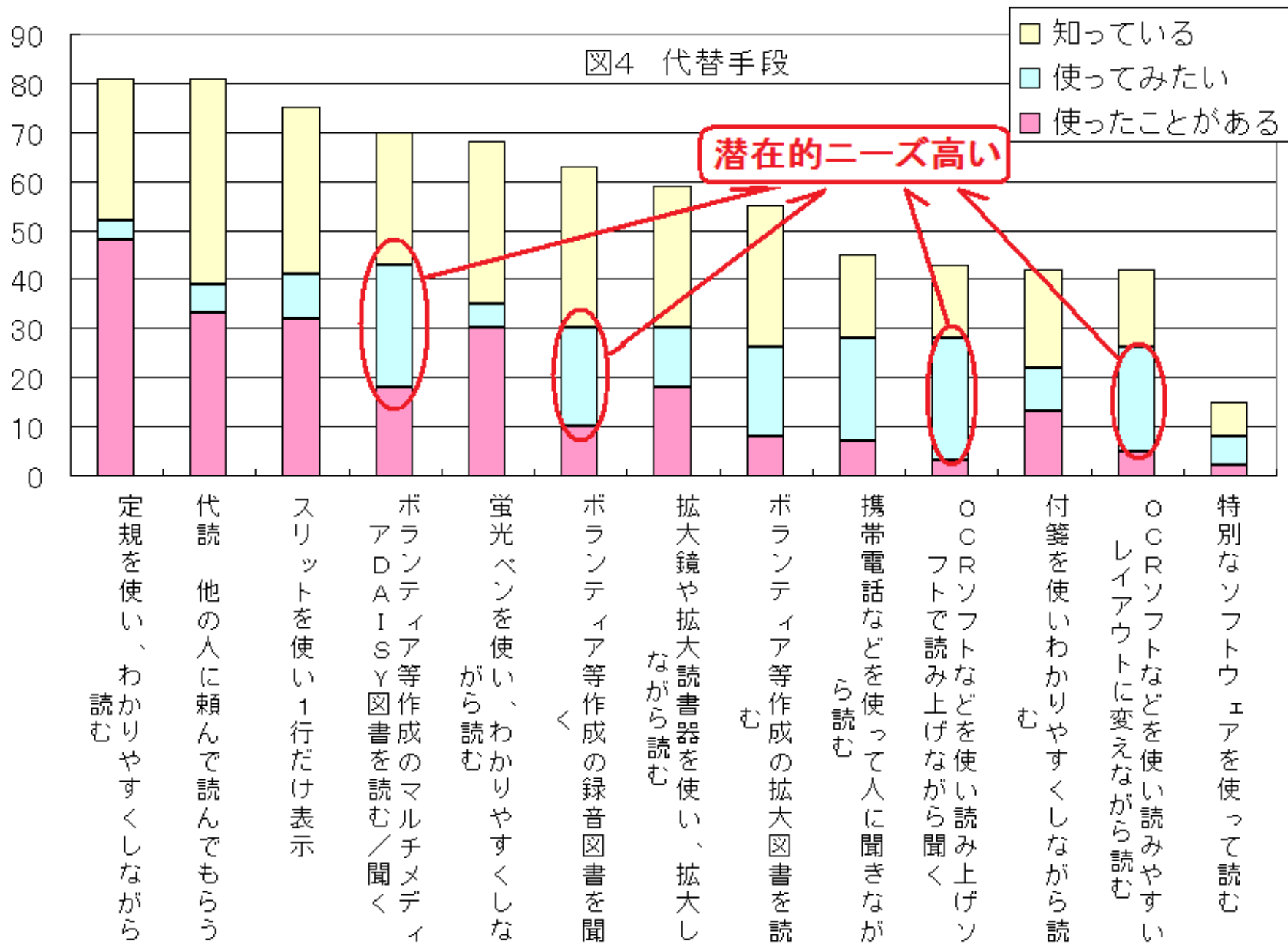


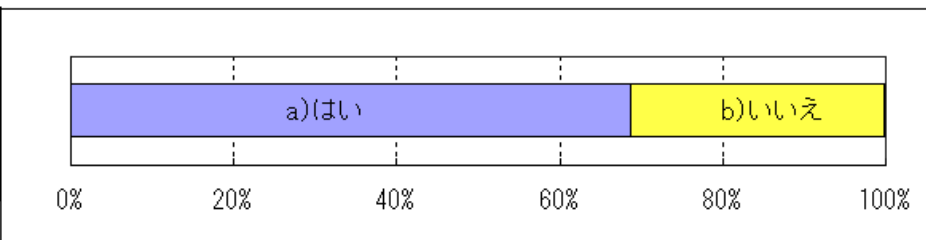
図2-3 日常活動場面での困難

図3 実際に困っていること

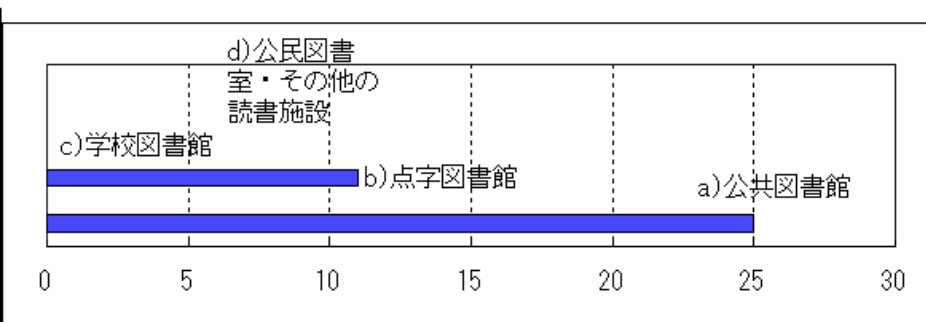




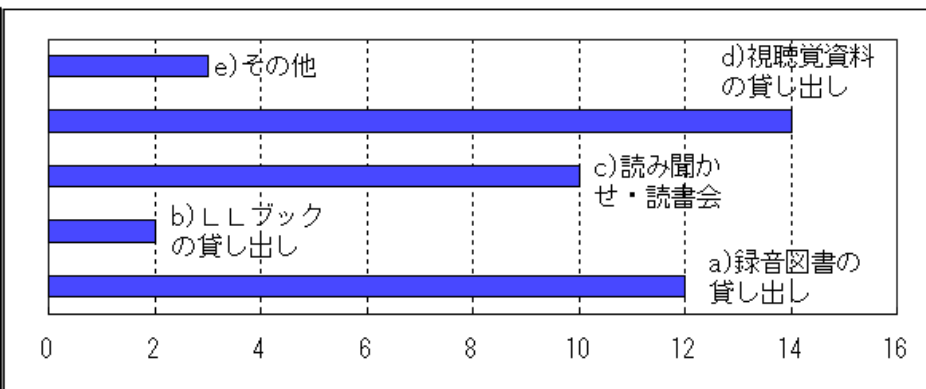
5-1. 録音図書や視聴覚資料等の提供を行っていることをご存知ですか？	
a)はい	46
b)いいえ	21



5-2-1. 録音図書や視聴覚資料等の提供を行っていることをご存知の方	
a)公共図書館	25
b)点字図書館	11
c)学校図書館	0
d)公民図書室・その他の読書施設	0



5-2-2. 提供されているサービスのうち、利用をすすめたことがあるのは	
a)録音図書の貸し出し	12
b)LLブックの貸し出し	2
c)読み聞かせ・読書会	10
d)視聴覚資料の貸し出し	14
e)その他	3



5-2-2. その他のコメント	
・大活字本の紹介	
・対面朗読サービス	
・DAISY図書	
・物語テープや、映像と語りのDVD (VHS) などの貸し出し	

図5 読みの支援サービス提供等に関する認識度

# まとめ

- 視覚障害以外にも「読むことに困難のある」人々が多数存在し、そこには「発達障害系」の人々が多数含まれている可能性がある。
- 支援技術による代替手段を利用して読書を楽しんだり、学習に生かすという活動は、現状ではほとんど行われていない。特に義務教育期においては、支援者の側からの配慮は残念ながらほとんど期待できない。
- 支援技術を積極的に使って代替手段を提供することは、障害のある人々に対する「合理的配慮」のひとつであるが、このような考え方そのものが、まだ日本では浸透していないことが原因なのであろう。
- 最近の著作権法改正や著作物のデジタル化とデジタルネットワークを介した利活用、各種電子機器の普及などにより、今後の著作物や情報のバリアフリー化や情報保障支援の進展が強く望まれる。